

一人1台端末を活用した授業実践例

5月31日(火)、数学科の我那覇光浩先生が授業を公開しました(3年1組)。本時は、生徒が根号(√)のついた数を、目的に応じて変形できることがねらいです。

令和4年度は、**生徒の学び方と教師の働き方を変革する沖縄教育DXの推進**が重点的取組事項であり、**一人1台端末の日常的・効果的な活用が、授業の基本事項**に盛り込まれました(図1)。

我那覇先生は、以前より積極的にタブレットを活用した授業を行っており、私たちをリードしてくれている先駆者です。

板書・ノート、1人1台端末

- 思考を整理し考えを深める構造的な板書・ノート指導
- 1人1台端末の日常的・効果的な活用

図1 一人1台端末が授業の基本事項に (問いサポP.5)

本時で使用するロイロノートは、双方向の授業や、思考の可視化により、生徒が自分の考えを仲間と共有し、学び合う授業で**熱狂的な学習者**に変容していくことを目指しています。

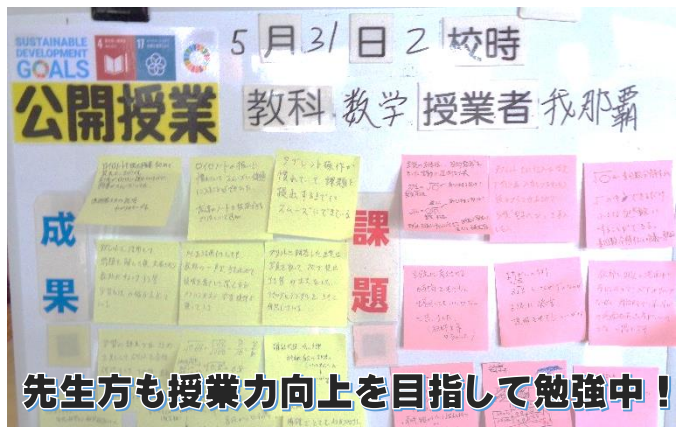
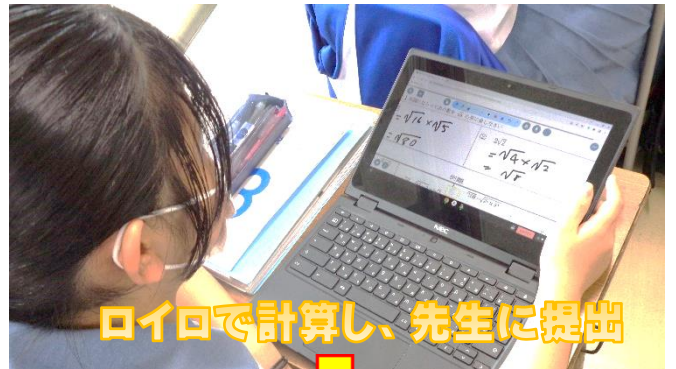
生徒は、前時まで学習した平方根の意味を振り返り、ロイロノートを使って、 $\sqrt{a} \leftrightarrow \sqrt{a^2b}$ を自由自在に往還することで、平方根の意味をより深く捉え直す契機となりました。

プリントで学習したい生徒は、最終的に**プリントを写真で撮って紐付けし、データ提出**するなど、**生徒自身が自分に合った最適な学習方法**を選んでいました。本時の授業で、**どんな数学的な見方・考え方を働かせて**、ルートを変形する【知識・技能】を身につかせたかったのか、数学科で検討していきたいです。

【生徒インタビュー】(Yさん)

普通のノートとロイロノートでは、どちらが使いやすいの？

ロイロの方が、自分の進み具合に合わせて学習することができるし、自宅にいても先生に提出して評価がもらえる。でも、途中式が必要で、じっくりと考える課題は、ノートの方がいいと思う。



自立した学習者の育成

「問い」を持ち、主体的に学ぶ授業

教わる授業

学びとる授業



インプット中心

授業観の変革



アウトプット中心

ICT活用で効果的に実現!

【めあて】自分の教科での活用方法をイメージしよう!

個別最適な学び アウトプット

【まとめ】

- ・子どもにとって**個別最適な学び**につながる活用を!
- ・子どもが**アウトプット**する場面がある授業を!

1人1人で個別に実践するよりも、学年や各教科でチャレンジすることを1つ決めて、みんなの実践を共有しながら、進めることが大切です!



図2 学年・教科で協働し、一人1台端末を日常的・効果的に活用し、生徒が「学びとる授業」へ転換します。